

憲法&男女共同参画週間 市民の集い

6月4日(日)、文化ホールで2023憲法週間&男女共同参画週間「市民の集い」を開催しました。
第1部では、肥田和子さん(泉南市男女平等参画審議会会長)に「男女平等参画」をテーマに講演をいただき、第2部では、映画「RBG最強の85才」を上映しました。参加者の方に寄稿いただきました。



『2023憲法週間&男女共同参画週間市民の集い』に参加して
第一部では、泉南市男女平等参画審議会会長の肥田和子さんの講演「男女平等参画」もういいかい?まーだだよ!」のお話をお聴きしました。

親の介護、昔は嫁、今は娘になってきているが、やはり女性が担っている等の実例を挙げながら女性の「生きづらさ」についてお話ししてくれました。それらを変えるには「無意識の偏見・思い込みに気づき、おかしいと言うこと。政策決定の場に女性が進出すること」の肥田さんのお言葉に納得しました。

まずは気づくことでしょうか。ひとつ嬉しかったのは、泉南市男女平等参画条例が他の自治体に比べ先進的であるということでした。

第二部 映画「RBG最強の85才」の上映
RBGとはルース・ベイダー・ギンズバークのことです。

アメリカで史上二人目の女性最高裁判事で、弁護士時代から一貫して女性やマイノリティの権利発展に努め、最後まで憲法の下での平等の実現に向け、果敢に取り組んだ彼女のドキュメンタリー映画でした。

彼女は結婚し子育てしながら仕事に没頭し、常に憲法に謳(うた)われている平等に照らし合わせ、ぶれることなく行動しました。

彼女ののおかげでどれだけ多くの女性が生きやすくなったことでしょう。すばらしい女性に出会うことができました。

(J・K)

参加者の声

◆彼女(RBG)のこと初めて知りました。特に心に残ったことは、自分と反対意見の人とも友人になれる人だということ。

◆講演を聴き、映画を観て、普段意識していなかった差別、人権問題について考えるきっかけとなりました。

◆ドキュメンタリーでも興味深く、ユーモアもある映画でした。もっともつと若い人たちに観てもらいたい内容だと思いました。日本の社会を変える女性、RBGのようない人がたくさん出てきてほしい。

◆女性の立場や生き方を考える良い機会になりました。



きずな

第23号

2023年10月

＜発行＞
泉南市人権啓発
推進協議会



バックナン
バーはこちら



人権協 フィールドワーク

6月7日(水)人権協フィールドワーク「大阪 生野コリアタウン歴史探訪と異文化体験」を開催、36名の方に参加いただきました。フィールドワークを通じて、朝鮮半島と日本の歴史的な関わり、異文化にふれることで、多文化共生の大切さについて考えていただく機会となりました。

フィールドワーク参加者の方に寄稿いただきました。

『大阪生野コリアタウンを訪ねて』

六月七日、梅雨の合間を縫って人権協フィールドワークが開催され、36名が大阪市生野区にあるコリアタウンを訪ねました。

現地ガイドにコリアタウンの各所を案内いただきながら、韓国衣装のお話や平野川の付け替え工事に伴い、当時日本の植民地であった朝鮮半島(済州島)から仕事を求めて日本に移住。生野の地に住み着き、現在は二世、三世の時代となっていることや、約60か国以上の国籍の人々が暮らす外国人の多住地域となっている等の説明を受けました。

また、当地にはその昔、干潟が広がっていて、ツルなどの水鳥が数多く飛来したことから「つるの橋」という名の橋が造られ、それが「鶴橋」という地名の由来となったそうです。

次に、コリアNGOセンターへ移動し、館長の講演



を聴きました。講演では、廃校となった小学校の建物を大阪市から20年間借り受け、コリアNGOセンターが中心となって地域の活動拠点「いくのパーク」として活用していることや、財政面ではNPO法人や他の商工業団体と連携して運営している等の説明を受けました。

また、一九八五年頃までは、在日コリアンの方々は就職差別や国民健康保険に加入できないなど、日本社会からいろいろな差別的扱いを受けていました。

しかし、一九八八年にはソウル五輪が開催され、これを契機とした日本と韓国の『出会いと交流』により、多くの日本人が観光客として韓国を訪れ、ショッピングやエステ、グルメ等、韓国の文化に直接触れ、身近に感じるとともに、朝鮮半島と日本が歴史的にも深い関わりを持つていることを学びました。

昼食(冷麺定食・石焼ビビンバ定食)の後、同センターにおいて「キムチ作り」と「ハングル講座」を体験しました。

キムチの歴史や作り方、キムチ料理のお話の後、一人ひとりが白菜キムチ作りにチャレンジ。作ったキムチはお土産として持ち帰りましたが、とても美味しかったです。

ハングル講座では、ハングルの基本となる母音の発音を練習し、「あいさつ」を学んだ後、講師と参加者、参加者同士であいさつ等の



会話をしました。私自身、初めてハングルを話しましたが、少し興味も湧いてきました。

最後に、参加者各自が思い思いのお店で買い物をしたり、コリアタウンを見学するなど、自由散策を楽しみました。

私は、昨年のフィールドワーク(水平社博物館の見学)に続いての参加でしたが、いろいろなお話を聞いたり、体験したりすることで、人権について考え、見つめ直す良い機会になりました。今後のフィールドワークにも積極的に参加したいと思います。

〈参加者の声〉

(K・M)

◆お互いの文化を理解して認め合い、友好を育てていくことが大切。

◆内容充実!キムチ作りも楽しかった。歴史(奈良時代からの交流もあり)的にも深い関係であることを改めて感じ、より親しみがありました。

◆日本との関係で色々難しい問題もあると思います。が、一番大事なことは、お互いを信頼し、理解することだと思いました。相手のことを思いやることが大切ではないでしょうか。

◆お話を聞くまでは少し偏見があった様な気がします。少しわだかまりがなくなりました。



人権協総会・記念講演会

5月20日(土)、会員並びに来賓の方々の出席のもと、令和5年度の泉南市人権啓発推進協議会の総会を開催しました。

総会では、前年度に実施したさまざまな事業を報告するとともに、本年度の活動・予算計画、新役員体制等が承認され、新しい会長に張戸節雄さんが就任しました。

新会長のごあいさつ

はじめまして、今年度から人権啓発推進協議会の会長に就任しました張戸節雄でございます。



南弘和前会長の急逝を受け、副会長から急遽、会長に就任することになりましたが、経験も浅く、まだまだ未熟者の私でございますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

私はこれまでは、人権を守ることに関心がなく、当たり前のことと思っておりましたが、人権協の活動を通じて差別や偏見、無理解が他人を傷つけ、時には死に追いやるといった、人間の尊厳を無視したひどい日常があることを知り、「人権を守ることは命を守ること」であり、争いがない、他人を思いやり共に生きる世の中であることがいかに大切であるかを実感しております。

今後も研鑽を重ね、人権思想の普及、啓発に努めるとともに、人権尊重のまちづくりのために邁進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

◆記念講演 多文化共生のまちづくり
「分かち合う」社会づくりのヒントに

総会に引き続き、岩城あすかさん（公益財団法人箕面市国際交流協会事務局次長）を講師に招き、記念講演を行いました。

岩城さんは、トルコ共和国のイスタンブール大学院への留学を経て、報道機関や通訳の仕事、一九九九年の「トルコ北西部地震」の復興支援事業では、ボランティア活動等をしてこられました。

本市の状況にもふれながら、今日の日本における外国人の急増化と多文化の背景、外国人市民との共生に欠かせないスキルや共生社会をどのように築いていくかについて、お話しいただきました。

また、自分の「あたりまえ」から見えてこない、いろいろな「あたりまえ」から学び、想像力と勇気を養う。そして、決して傍観者にならないよう、人間同士の交流を大事にしてほしいと締めくくられました。

◆参加者の声

◆「自分のあたりまえ」を考え直す機会を頂きました。多面的にとらえる力が重要かつ持続すべきであることとのお話を聞かせていただき大切にしたいと思います。

◆マイクロアグレッションという言葉を知り、自分は差別していないと思っているが、無意識の偏見や無理解、差別心を含んでいないか確認したい。相手のことを気遣っていきたい。

ABCまつりに参加！ 駅頭啓発活動を再開！

4月29日(祝)、サザンスタジアムにおいて、4年ぶりとなる「ABCまつり」が開催されました。少しお天気が心配されましたが、約2000人の方々が来場され、笑顔あふれる「ABCまつり」となりました。

また、コロナ禍で実施を控えていた駅頭啓発(市内4駅)も再開することができました。

人権啓発推進協議会では、人権啓発ブースを展開。

人権協の主な活動内容を紹介したパネルを展示するとともに、ブースに訪れてくれた方々に啓発物品や色とりどりの風船を手渡しました。

イメージキャラクターの人KENまもるくん

とあゆみちゃんが登場すると子どもたちも大喜び。一緒に写真撮影したり、握手やジャンケンをするなど、大人も子どもも久しぶりのABCまつりを楽しむことができました。

また、コロナ禍で実施を控えていた市内4駅(JR和泉砂川駅、新家駅、南海樽井駅、岡田浦駅)での駅頭啓発も再開。

4月28日(金)は「憲法週間」、5月26日(金)は「泉南市人権尊重のまちづくり条例」の啓発を行うため、早朝の約1時間、人権協役員、市職員とともに、山本市長もかけつけるなど、通勤や通学で駅を利用する市民の皆さんにポケットティッシュを配布し、人権尊重のまちづくりを呼びかけました。



非核平和の集い

泉南市では、平和の意味や大切さを考える機会とするため、毎年8月を「非核平和月間」とし、様々な取り組みを行っています。

8月6日（日）、文化ホールにおいて、2023「非核平和の集い」を開催し、昭和20年の広島を舞台にしたアニメ映画「この世界の片隅に」を上映しました。参加者の方に寄稿いただきました。



子どもの頃、母から戦時中の話、特に和歌山大空襲の話聞いた。劇中にもありましたが、焼夷弾の威力はものすごく、和歌山城のお堀でも多くの人が亡くなられたのを目の当たりにしたそうです。今も報道ではウクライナで多くの一般市民が犠牲になっている映像を見ます。結局、戦争では弱い市民にも多くの犠牲がでます。このような事態を絶対に起こしてはならないし、また起こされないよう、常に努力する必要があります。私が義務教育を受けた頃は、昭和史を教えてもらうことはありませんでした。

戦国時代等の歴史も大事ですが、戦前・戦後の昭和史を学ぶことが生きていく上で大切なことが多いと考えています。

映画では、18才の主人公すずが会ったこともない男性（周作）の住む町・呉に嫁いでいくなど、当時の日本の女性の地位・境遇を如実に表していると思います。現在はその頃と比べて大幅に改善されていますが、世界標準（ジェンダーギャップ指数）から見るとまだまだ遅れていて、今後、女性の地位向上にはさらなる努力が必要だと思います。

（樽井校区 牧野 彰二）

編集後記

「市民の集い」で上映した「RBG最強の85才」はいかがでしたか？

日常生活ではまず見ないミドルネーム込みのイニシャル3文字に戸惑ってしまい、タイトルだけでは何の意味かわからない人がほとんどだったと思います。

映像や色彩に詳しい方はアルファベット順が微妙に異なる、「RGB・光の3原色/加法混色」を思い起こしたかもしれません。

これは、①赤/Red②緑/Green③青/Blueの3色の組合せ、例えば赤と緑で黄色、赤と青で紫、緑と青で水色、更には黄色にもう少し赤を加えてオレンジなど、3色の組合せで様々な色を作り出す技術で、古くはテレビのブラウン管に、現代ではPCやスマホに使われています。そしてこの3色を適度に混ぜれば「白」になります。

一方、私たちの生活では、より身近な「色の3原色/減法混色」があります。水彩や油彩、色鉛筆やクレヨンのほか、オフィスや家庭で使うカラーコピー機がその代表です。

①シアン/青緑②マゼンタ/赤紫③イエロー/黄色の3色、この内、シアンとマゼンタを加えると青に、シアンとイエローで緑、マゼンタとイエローで赤に

なり、これで先程紹介したRGB3色が完成、さらにそれらの配合を変えて様々な色を作り出す事ができます。加法混色との違いは色を重ねるにつれ明るさが減り、やがて黒になってしまうことです。（→絵の具や鉛筆の芯には、発色を良くする為の原料が入っていて、実際は真っ黒になりません。）

ベースになる3色の組合せ・微妙な配合で別の色を作り出す手法は同じですが、3色全てを混ぜると一方は白、他方は黒と真逆の結果になります。

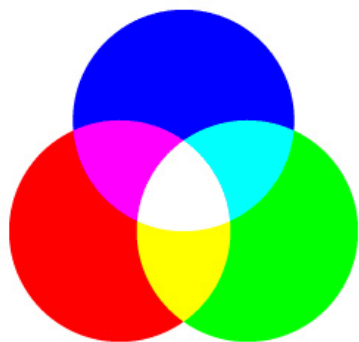
数えきれないくらいの色があるのと同じで人も様々です。私たちの泉南市にも、以前からある単純でわかりやすい

男女性差や世代差だけでなく、国籍や出自・宗教、学歴や職歴、働き方の違いにより様々な価値観を持つ人々が暮らしています。

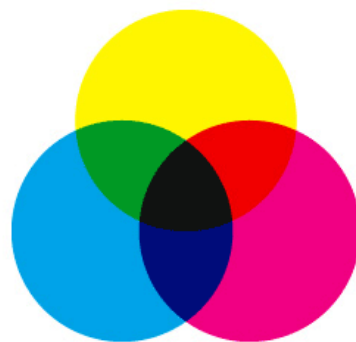
このような時代、それぞれの色を混ぜ合わせた結果の白や黒といった決めつけでなく、全ての色を包み込むような社会を目指したいと考えています。（編集委員/西信達校区 柿本繁雄）



※市ウェブサイトでは「きずな新聞」をカラーで見ることができます。



光の3原色（RGB）



色の3原色（CMYK）